



11月院生研究報告会と催しの報告

東北公益文科大学大学院では、院生の研究の資質向上を目指す機会として、学期ごと年2回「院生研究報告会」を開催しています。今年度秋学期分を、11月12日(土)に実施しました。

今回は、修士課程2年の2名から感想を伺いました。発表後の振り返りや、専門分野の異なる教員、院生から質疑応答や意見が交わされたことで、修士論文を執筆する上で参考となったようです。



修士課程2年 富塚 美咲 さん

最後の院生研究報告会ということで、事例調査を踏まえた発見事項や、現時点での分析結果について主に報告しました。私の研究テーマは、行政と民間団体が連携した家族介護者支援の実践モデルの探索ですが、公私連携の在り方における分析視点や研究方法についてアドバイス等をいただくことができ、大変貴重な機会であることを改めて実感しました。

今回のアドバイスやご指摘を踏まえて、1月の修士論文提出に向け執筆を進めていきたいと思っています。



富塚 美咲さん
発表の様子

修士課程2年 櫻井 敬子 さん

私は、「中退予防の観点から高校生の中途退学に対する意識と中途退学問題への取り組みのあり方」というテーマで、研究を進めています。

院生研究報告会では、先生・院生から様々な角度からのご質問・ご意見をいただきました。分析の視点や取り組みの有効性など新たな視点を得ることができました。

修士論文提出日まで残り2カ月程となりましたが、今回いただいたご質問・ご意見を参考に自分の研究を完成させたいと思います。



櫻井 敬子 さん
発表の様子

社会人向けオープンキャンパスを開催しました

11月12日(土)に、初めて社会人のみを対象としてオープンキャンパスを開催しました。はじめに、武田真理子研究科長から大学院改革や4つの研究領域、企業との連携授業などを説明。ノヴァコフスキ カロル講師が、アイヌ語をテーマに、危機言語の記録保存のために、自然言語処理技術の一つである音声認識が活用されていることについて模擬講義を行いました。院生話題提供では、自治体からの研修派遣制度を利用している修士課程2年の院生が登壇。入学へのきっかけは「実務の現場では、官民間問わず実務家は『机上の論』を軽視しがちだが、理論に基づく実践こそ重要」と考えたこと。大学院で得た知識や技術は、仕事場でも活用できると感じているそうです。研究の主体は自分自身であるなど熱く参加者に語りかけ、院生生活の実体験を述べました。



ノヴァコフスキ
カロル 講師による
模擬講義の様子

